

2003年 豪州・ペンリス市春ゆめの大自然交流合宿

2003（平成15）年4月1日～4月5日

- 目 的
- 1) 大自然の素晴らしさを体感し、自然保護の大切さを知る。
 - 2) 異年齢の仲間達と群れ集う中で、自分を知り、仲間を知り、群れ集う素晴らしさを体得する。
 - 3) 仲間達との交流を通じて新たな人間関係の構築を図る。

主 催 特定非営利活動法人静岡県教育フォーラム

藤枝市国際友好協会

ペンリス市国際友好協会

後 援 藤枝市、藤枝市教育委員会、静岡県教育委員会

協賛企業 (株)中央防犯、消防設備保全(株)、サンワ開発(株)、カネシン

(有)カー牧場リベロ、がんまめファミリー倶楽部、割烹田毎

(有)徳谷薬局、(有)静岡オープンスクール、人形の雛常

(株)江崎新聞店、大塚園、(株)ニッシン、プレステージ

協賛者 (掲載のご同意が取れませんので、6名様のお名前は差し控えさせていただきます。)

実施説明会 1月13日午前10～12時 於：藤枝市生涯学習センター第5会議室

参加者研修 英会話 小中学生 3月16日(日)午前10～12時(各1時間)

於：藤枝商工会議所研修室

スタッフ(一般・高校生は希望者)

3月1、8、15、16、22日 午前10～11時半

於：静岡オープンスクール本部、及び、

ふじえだ市民活動支援センター

交流会 小中高生・スタッフ 2月16日(日)、3月21日(祝) 午前10～12時

場所 藤枝・蓮華寺公園

会 場 オーストラリア・ペンリス市

日 程 平成15年4月1日(火)～5日(土) 4泊5日

4月1日(火)

昼12時過ぎから、参加者が集まり始める。中には午前10時前に市役所に到着した参加者もいた。

12時半過ぎ、高校生I君を最後に全員集合。グループ毎に名札配布、パスポート回収、出発準備完了。

午後1時 藤枝市役所をバスにて出発。途中、足柄SE、湾岸幕張Pで休憩。旅行会社と連絡を取り、成田空港に向かう。

6時 成田空港着。ワゴン車2台を駐車場に。荷物に名札を付け、出国手続き。手荷物検査

を受け、搭乗ゲートで夕食。緊張で食事がすすまない子やトイレに頻繁に行く子も出るが、OK。そんなことを気遣っていたら、レンタルの国際携帯電話の受け取りをすっかり忘れる。8時過ぎ、シドニー空港に向けて飛び立つ。

10時、機内で夕食。メニューはお寿司、照焼きチキンとご飯又はポークカレー、杏ソース付オレンジプリン、コーヒー又は紅茶。

11時頃より座席を傾けるが、1時間経っても眠れない子供達数名。それでも1時過ぎには殆どどの参加者が就寝する。

2日(水)

午前2時過ぎ、飛行機が乱気流に入り眠りから起こされるが、数分で脱出。

5時、機内で朝食。メニューは、洋食＝オレンジジュース、フルーツ、ソーセージ、ハッシュブラウン、ほうれん草、ベーコン、和食＝ウーロン茶、ガーデンサラダ、おにぎり、つくね、卵焼き、レンコンとほうれん草、香の物、コーヒー又は紅茶。う～ん、眠い！

7時5分 シドニー空港着、入国手続き。荷物検査中に、A君がパスポートを紛失、探しに行ったリーダーが係員に呼び止められる。無事パスポートは見つかり、リーダーも帰えされホッとする。ペンリス市国際友好協会の出迎えを受け、バスでボンダイビーチへ。ジュースと菓子、散策で長旅を癒す。残暑で長袖では汗がにじむ。バスでハーバーブリッジ、オペラハウを見学して、ペンリス市へ。



午後0時半 宿泊舎着。昼食。サラダ、ベーコン、パン、果物、ジュース。夕方まで宿舎で休憩。

5時 宿舎を出発、ペンリス市民センターへ。

6時半 ペンリス市主催 公式歓迎会。今回の訪問をエスコートしてくれるペンリスのBuddies と合流。Buddyへプレゼントであったけん玉、だるま落とし、紙風船で盛り上がる。

7時45分 宿舎にて夕食。協会の方々がバーベキューを用意してくれる。途中、リーダー・O. Y. ちゃんのBirthday Partyもあり、楽しく過ごす。その後、学校訪問時の合唱練習。小学校訪問組は「星に願いを」、高校訪問組は「イマジン」を。

9時半 就寝。

10時からミーティング。11時、本部部屋に高校生が集まりミーティング参加を希望され、その自主性に参加を認める。今日の反省や明日の日程や個々の参加者の対応指示の確認を終えた後、友達って何かとの問いから始まり、いじめを語り合い、湾岸戦争を議論し、自殺についても突き詰める。結構、話が重くなった。

3日(木)

午前6時 起床・朝食。

7時半 高校訪問組、キングスウッドハイスクールに出発。

8時15分 小学校訪問組、ジャミソンタウンパブリックスクールに出発。

高校は、ビスケット作り&写真とアート&スポーツ組に分かれて、授業を受ける。小学校は朝礼後、Buddyのクラスに入り、一緒に授業を受ける。その後、共にオーストラリアの子供達に折り紙と習字を教え、合唱の交換。昼食。

午後1時、高校組が小学校に来て合流。フェザデイル野性動物公園に。メルボルンで働いている中村君(静岡オープンスクール OB)と合流。待望のコアラベアに触れたり、カンガルーに追い掛けられたり、大感激。約2時間半見学。

5時頃、宿舎着、休憩・シャワー。

6時 宿泊先にBuddiesが来てくれ、一緒にピザパーティ、友好の手形押し絵作り。アクアゴルフ(中高生)に盛り上がる。

9時45分 就寝。

10時15分、前日に続いて高校生も加わりミーティング。子供達の変化にミーティングも盛り上がる。

4日(金)

午前6時 起床・朝食。荷造り。

8時半 ブルーマウンテン訪問、The three sistersを見学。トロッコに乗り岸壁を降り、ロープウェイで戻りながらブルーマウンテンの自然にどっぷり漬かる。これにあやかって、本部スタッフの中にもThe three sisters誕生。昼食はパブでミートパイ(これがまたデカイ!大人の男性の手のサイズ)&ポテト、ジュース。ブルーマウンテンにて。

午後2時半 ペンリスプラザにてショッピング。Buddyやリーダーの助けをかり、お土産買いに奮闘。4時半の集合に30分近く遅刻する子達もあり、大慌てでバスに戻る。同時に、両市国際友好協会の合同会議。グリーンノ会長を始め、皆さんが子供達の様子を報告を受け、感動される。

5時 宿舎着、休憩。

6時15分 ジャミソンタウンパブリックスクールに。中村君、帰る。送別会—オーストラリアのBuddyとその御家族、ペンリス市国際友好協会会員、ペンリス市役所代表者らと私達51名、総勢150名を越す大パーティとなる。子供達はBuddyからまたプレゼントを頂き、大感激。名前や住所、メールアドレスなどを交換。プロのコック仕立てのビーフ&ポーク、ポテトにサラダ、パンの夕食。途中、小6のSちゃんの飛び入りのBirthday partyが入ったり、ブッシュバンドに合わせて、百数十名の大ダンス。感動のパーティでした。

10時 宿舎着。子供達は10時半就寝。

10時45分からのスタッフミーティングも、興奮が覚めやらず。1月末、一人のリーダーの親御さんの突然の入院(その後元気になられ、ホッとす)、3月に入り世界情勢が不安定

になり、遂にイラク戦争が勃発。加えて、新型ウィルス肺炎（サーズ）の発生と直前のリーダーの身内のご不幸を乗り越えての実施だけに、みんな感極まる。

5日（土） 前夜遅かったにも関わらず、全員6時までに起床。

6時半、宿舎出発。

8時 シドニー空港着、出国手続き。簡単に朝食をとる。

9時55分 シドニー空港発（カンタス航空QF179）。

10時半 機内で昼食。ポテトサラダ、味噌風味チキンとご飯又はビーフ赤ワイン風味のさやいんげんとポテト添え、レモンパンナコッタ、チョコレート、コーヒー又は紅茶。その後、前夜の寝不足解消を計る者あれば、トランプに興じ過ぎ、フライトアテンダントに注意される子もあり。その後、全員が心理テストを採り、感想文書き。この3日間を振り返り、その思い出に浸る。

午後5時、機内で夕食。ビーフの蒸し煮醤油風味うどん又は魚のグリル焼き、レモンソース、果物のラムシロップかけ、コーヒー又は紅茶。雨の成田空港に、乱気流流にあいながらも定時刻より30分早く着陸。しかし、ゲートが込み、機内で待機。結局、7時前に飛行機から降りる。入国手続き。

8時半 藤枝市の送迎バスにて藤枝へ。途中、一部の参加者が、沼津IC、富士バイパス沿いマクドナルド前、静岡駅北口で下車。

午前1時頃 藤枝市役所着、解散。

実施報告会 平成15年5月11日（日）午後1時～4時 於：藤枝市役所大会議

宿泊 ペンリス市・ケーブルスロッジ

参加人数 小学生15名、中高生18名、リーダー11名、本部スタッフ7名計51名が参加。

事業本部 特定非営利活動法人静岡県教育フォーラム 理事長 山下泰孝

（住所、電話番号等、略）

藤枝市国際友好協会 会長 後藤彰 様（当時）

（住所、電話番号等、略）

ペンリス市国際友好協会 会長 ジャッキー・グリーンノー 様（当時）

（住所、電話番号等、略）

4月2日 ペンリス市主催 歓迎会

山下泰孝・静岡県教育フォーラム理事長 挨拶

Good evening Mayor Davies and senior officials of Penrith City Council, members of Penrith International Friends Committee, principals and staff of the schools participating in the program, and all the buddies of our students.

I'm Yasutaka Yamashita, General Manager of NPO Shizuoka Education Forum. I appreciate your holding Civic Welcome reception for us. We, Shizuoka Education

Forum have had many kinds of wild activities, for example Canoeing, hiking, camping and have given psychological counseling between students and their parents for about 20 years. Some of them didn't like to go to school with various problems. But these activities and community with their friends have brought them to go to school.

This program is the first foreign community camp for us. We are very glad to carry it into action by the grace of you and officials of Fujieda City Council and members of Fujieda International Friendship Society. We would like to express to you our deepest gratitude. In this program our students and leader staff will cultivate firm friendships with their buddies and Penrith staff. This friendship must get over crisis like the Iraq war and achieve a lasting peace between Penrith and Fujieda in the future. And the experiences in the nature of Blue Mountains which are registered as one of world heritages by UNESUCO will cultivate the love for nature. These experiences will be very significant for their future, I believe.

Thank you very much for your kind attention

後藤彰・藤枝市国際友好協会会長（当時）様 挨拶

皆さん、こんにちは。

ただいまご紹介頂きました、藤枝市国際友好協会会長の後藤彰です。本日は私達のために歓迎会を開いてくださり、誠にありがとうございます。

私は、昨年の7月に松野輝洋藤枝市長（当時）や藤枝市民訪問団の皆さんとともに、ペンリス市を訪問させて頂きましたので、今回が2回目になります。たった1年の間に2回もペンリス市を訪問することが実現したわけです。これは大変珍しいことで、このように短期間の中で再びペンリス市の皆さんとお会いできた私は、とても幸せだと思っております。

さて今回私達は、NPOの静岡県教育フォーラムのスタッフと協力してここペンリス市にやってきました。藤枝とその近隣の子どもたちに、ペンリスの皆さんと交流し、オーストラリアの大自然にふれ、ぜひその素晴らしさ感じてほしいと願っております。

今回のプロジェクトの趣旨を理解し、多大な支援をしてくださったペンリス市や友好協会、学校関係者の方々、その他このプロジェクトに関わったすべての皆さんに感謝致します。また、私自身、このプロジェクトに関わったことによって友好の輪を広げるお手伝いできて、とてもうれしく思います。

これから先も、今以上に子どもたちの友情の輪が広がっていくことを願って、私のあいさつとさせていただきます。

4月4日 送別会

山下泰孝・静岡県教育フォーラム理事長 挨拶

Good evening. I'd like to express my warm thanks to the officials of Penrith

and Fujieda city councils, members of Penrith International Friendship Committee and Fujieda International Friendship Society, principals and staff of Jamison Public School and Kingswood High School, and the wonderful buddies for supporting this program.

The civic welcome reception, the visit to schools and the students' party were significant, and I believe that through all the activities, friendship between mutual students has been deepened.

Particularly, I am grateful that our students have been able to have warm interaction with the buddies of the same generation. I trust that a bridge of friendship has been built over the Pacific Ocean, which will remain in everyone's heart forever.

As good remembrance, we will treasure the "hands of friendship" artworks created by the Australian and Japanese students.

I was also greatly impressed with the magnificent nature of the Blue Mountains, and I am sure that the students have felt the beauty of mountains and rivers, too.

This program would not have been achieved without your great support, of which we, Shizuoka Education Forum, are deeply appreciative. The experience that our students have had here will benefit their future and also the students to follow.

Moreover, it would hopefully encourage some students to return to their own schools. I would like to close my speech by expressing a hope that this visit has contributed to strengthen the tie between Penrith and Fujieda, celebrating the 20th anniversary of the sister city affiliation next year.

Thank you very much.

後藤彰・藤枝市国際友好協会会長（当時）様 挨拶

皆さん、こんばんは。

藤枝市国際友好協会を代表しまして、一言お礼の言葉を述べさせていただきます。かねてから、子供たちが人との触れ合いの大切さを知り、大自然のすばらしさを体験することは、これからの子供たちの成長過程で、非常に有意義なものになると考えておりました。そして今回、その目的を果たすため、学生訪問団がここペンリス市にやってきたわけです。

今子供たち一人一人の顔を見ると、今回のペンリスでの貴重な体験は、子供たちにとって、また私たちにとっても生涯忘れることない、一生の宝となったと実感致します。

この貴重な体験に、温かいご支援とご協力をいただきましたペンリス市の皆様に心から重ねて感謝するとともに、またいつの日かお会いできることを願ひまして、お礼の言葉と致します。

本当にありがとうございました。

F. T. さん (小3) のスピーチ (自作のスピーチです!)

Thank you for your great hospitality.

We had a wonderful time. I enjoyed the pizza party. I have really enjoyed my stay in Australia.

S. M. さん・リーダー代表スピーチ

Good evening everybody!

We are really happy to have come to Penrith City in this time and meet you. Thank you very much for everything. Before coming to Australia, I had many worries. Firstly, we are not good at speaking English. And also, going abroad was the first experience for many of us. Additionally, the war broke out. But we were looking forward to coming to Australia and meeting you. So now I am really relieved because this program will be completed without any troubles.

I think it has been a valuable experience for children to come here. Because they had a good time with good friends in a good place. We will never forget what we have done in Australia, which will remain as pleasure memories.

Especially, best memory is to meet their bodies for children. And we found that the kids can become friendly without language. When we looked at them, we really moved. And junior high and high school students really enjoyed AQUA Golf last night. They experience it for the first time.

Finally, I hope that this visit has been for the friendship between Penrith and Fujieda, and the world will be in peace everywhere for all the people. We will be looking forward to seeing you in Japan next time. I can not thank you enough for your care and kindness. Thank you again for everything. Thank you.

参加者感想文

Y. M. さん (小2)

さいしょはオーストラリアだなあって思ってたんだけど、だんだん日本みたいだあと思ってきちゃったんだ。だから家がこいしくなかったよ。お母さんにあいたいとも思っていたんだけど、少しだけだったよ。はやく帰っておみやげみせたいなあと思った。そしたらおかあさんもさみしい思いからかいほうすると思うよ。しゃしんもみせたらびっくりするよ、ぜったいにびっくりすると思う。今帰りのひこうきにのっているから、もうすぐあえるからまっててね。

S. A. さん (小2)

いちばんたのしかったのは、どうぶつえん。ちょっとつかれたけど、おもしろかった。しゃしんをとったりしてたのしかった。

K. A. くん (小2)

オーストラリアにまたたくさんとまりたい。

F. T. ちゃん (小3)

わたしがオーストラリアに行って楽しかったことはピザパーティーで、わけはピザがおいしかったからです。ざんねんだったのは、ホテルにあった3段ベッドの一番上に寝れなかったことです。たいへんだったことは、バスに5時間ぐらい乗ったことです。

S. A. さん (小4)

学校に行ってわたしのバディーは「ザジーちゃん」って言う子でした。学校は1階で広かったです。リーダーのさやかちゃんとKちゃんとAちゃんと4年生の教室に行って、おりがみとしゅう字をおしえてあげました。さかかちゃんがさきに紙ひこうきをみんなに教えてあげました。わたしは、おり紙でいすとオルガンといえとふうせんを教えてあげました。ふうせんのなかおりがグループの人ができなかつたけど、自分で考えようとする子いました。おり紙もおわってしゅう字もおわって図書室にいて、本をザジーちゃんが読んでくれました。

M. S. くん (小4)

オーストラリアに行ってとっても楽しかったです。オーストラリアにまた行きたいです。オーストラリアにはたくさんの人がいて、みどりがいっぱい、とてもおいしいりょう理がありました。ぼくは、ミートパイがきにいました。また食べたいです。

オーストラリアの友だちもできました。わかれる時が、つらかったです。「また会おうね。」とやくそくしました。

A. S. くん (小4)

オーストラリアは、暑かったけどおもしろかった。海外は初めてだったけど、オーストラリアは日本と同じような国だと思った。でも、ごはんが肉ばかりでこまった。肉はあんまり好きじゃないのに。オーストラリアでスリーシスターズや、ブルーマウンテンを見た。ブルーマウンテンは青く見えなかった。

Y. K. ちゃん (小4)

わたしは、オーストラリアにはじめていきました。ペンリス市市民センターでバディーとあいました。さいしょえい語でプレゼントをあげるのにきんちょうしました。でも、すぐ

になかよしになれました。ほかのお友だちもしょうかいしてくれたから、バディーのお友だちともすぐにお友だちになれました。ピザパーティーの時にはすごくあそびました。おわかれの日バディーとバディーのお友だちとおわかれです。あそびをおしえてもらいました。それは、ずっーとずっーとわすれません。バディーとバディーのお友だちありがとうー。

T. A. ちゃん (小4)

4月3日にペンリス市の学校へいっており紙としゅうじをしました。学校でクラスにいっしょにいくリーダーのさやかちゃんがかみひこうきを教えてあげました。と中で教えたクラスの先生にほかのつくえに行つて教えてあげてと言われたので、ほかのつくえに行つて教えてあげました。それからさやかちゃんがすみの作りかたを教えてじゅんぼんに作らせてあげました。そして、1つのはんがさきにかくことになりました。ほかのはんは、わたしたちがおり紙をおしえてあげました。おしえてあげている時にシールをもらいました。そしておしえおわたたら、としよしつにいきました。そして、本をかえしたりしました。そして外に行きました。そしておかしとコアラをもらいました。そして歌のへやへいって歌をききました。そしてしゅうごうして、写真をとりました。そして、体いくかんに行つて、「ほしにねがいを」をえいごで歌いました。歌がおわたたら少し物をたべました。その時にりんごジュースをもらいました。そして教室にもどつて、ウエストポーチをとつてきてから、さいしょにおいたリュックサックをとつてバスにもどつてかえりました。おり紙を教えるのは、えいごがわからなくて、こまったり、できない所をやつてあげてたいへんだつたけど、たのしかつたです。またこういうきかいがあればいいなーと思います。歌の部屋にいきました。みんなじょうずでした。もうかえる時間になりました。わたしは、「きょうは楽しかつたなー」と思いました。

Y. K. くん (小5)

ぼくは、はじめてオーストラリアに行きました。オーストラリアについたら、ペンリス市の人たちがむかえにきてくれました。そしてバスにのつてペンリス市に行きました。ペンリス市に行つてぼくは、フェザデイル野生動物公園やブルーマウンテンやペンリスプラザに行つてとつてもたのしかつたです。でも一ばんよかつたのは、J小学校のバディです。ぼくのバディのキャメロンくんはたくさんオーストラリアのことをたくさんおしえてくれました。そしておわかれ会のときはオーストラリアのものをたくさんくれました。とつてもうれしかつたです。またいつかオーストラリアに行きたいです。

T. T. くん (小5)

ぼくはオーストラリアに行けてとても楽しかつたです。一番良かつたのはブルーマウンテンと動物園でした。オーストラリアの友達ができて、いっしょにパーティができてうれし

かったです。ぜひまた行きたいです。

S. T. くん (小6)

最初は、日本語がペアーに通じなくてどうしようと思ったけど、だいたいわかってよかったです。

W. T. さん (小6)

最初は日本語がペアーに通じなくてどうしようと思ったけど、だいたいわかってよかったです。オーストラリアに着いたときはあまり実感がなかったけど、だんだんオーストラリアにいるんだと思うようになった。特に3日目の小学校見学や野生動物園に行ったときは、日本とはちがう勉強の仕方や、日本にはいない動物が見れたのがよかったです。ペンリス市の人の歓迎会とか、学生パーティー、送別会をやってくれたのでよかったです。4月4日、ジャミソントン小学校のバディーと最後に楽しく良く遊べたのでよかったです。またオーストラリアのバディーに会いたいです。

S. M. さん (小6)

たのしかったのは、どうぶつえんで、エミューとあそんだことと、カンガルーにおそわれて、だっそう(カンガルーが)したことです。またできたらこんなことができればいいです。

T. S. さん (小6)

オーストラリアに着いた時はきん張していたし、わくわくしていました。3日間遠い国にいるからです。ペンリス市にいくと中、ハーバーブリッジやオペラハウスなど見てびっくりした。とても大きくてきれいでした。見れてとってもうれしかったです。その夜にはかんげい会をしてくれて、エリンという女の子とバティーになりました。いっしょにペーパーバルーンで遊びました。(紙ふうせん) 楽しかったです。つぎの日には、エリンの学校へいきました。びっくりしたことは、学校でおかしを食べていいことと、1かいだてだったし、運動場らしい運動場がなかったことです。学校では、組みのせいとと授業をやったり、日本の書写をおしえたり、おり紙をやりました。エリンとエリンの友達キャラシーにカタカナを教えてあげました。夜にはピザパーティーをやりました。パイナップルが入っていてびっくりしました。そのあとなわとびやボール遊びオーストラリアの遊びをやりました。最後の日ブルーマウンテンを見ました。とってもきれいでゆうだいでした。すばらしかったです。トロッコに乗って、下までいきました。スピードがあって、とってもたのしかったです。送別会お別れの日エレンがプレゼントをくれました。ノートやふでばこといろいろおそろいのネックレスもくれました。とーっても楽しかったです。その日はたんじょう日だったので、みんながいわってくれました。ケーキもくれました。とってもうれしく、はずかしかったです。そのあと、わたしからのプレゼントをエレンにあげました。よろこんでくれました。そして

バスに帰ることになったときとてもかなしかったです。なみだがでてきました。またエレンにあいたいです。じゅう所を書いたので手紙を書きます。またオーストラリアに行きたいです。

M. S. さん (中1)

とにかく楽しかった (単純・・・) 英語はよくわからなくて「Yes!」「No!」しか答えてないけど (単語しか聞き取れなかった)、友達 (バディーも含む) もできたしよかった! ブルーマウンテンの景色もサイコーだったし、コアラ&カンガルーも、ものすごくかわいかった。もういっそのこと学校サボってもう少しオーストラリアに居たい!!!

S. R. 君 (中2)

ぼくはオーストラリアに行って、オーストラリアと日本はいろいろなところがちがうと思いました。とくに、自然がいっぱいあるところがちがうと思いました。

S. D. 君 (中2)

良い交流合宿になったと思う。だが、もう少しオーストラリアに滞在したかったな。また、オーストラリアに行く機会があったら、またあの学校に行きたいな。そして、Amy friend の Wilson と再会したいと思っています。別れは寂しいものですが、また会えることを信じて連絡をとりつづけてたいです。

I. K. さん (中3)

今回の旅行では、飛行機にも乗れたし、オーストラリアにも行けたし、バディたちに会えたりして、普通だったら体験できないものを体験できてよかったです。スケジュールはけっこうハードだったし、なれない環境で大変だったけど、楽しかったです。でも、英語があまり話せなかったのもっと勉強したいと思います。できたら、また行きたいです。それと、リーダーさんがやさしくてよかったです。

A. N. さん (中3) (本編「豪州・ペンタリス市 春ゆめの大自然交流合宿に参加して A さんの場合」に登場します。)

今回の5日間、ふだん体験できない事ばかりで不安がたくさんありました。特にペンリス市の生徒との交流は「1対1」だったので、ギリギリまで不安で仕方ありませんでした。2日目の朝にはオーストラリアに着き、夕方には歓迎会での対面はきんちょうしてほとんど話すことができませんでした。3日目は朝からキングスウッド高校へ行きました。バディーに友達を紹介してもらったり、アート&スポーツと一緒に授業を受けたりなど、きんちょうもしていたけれど、少しずつ仲良くなれました。最後は歌を歌ったり、習字をしながら昼食をとりました。その後はグループで動物公園へ行って、オーストラリアの動物を見て周り

ました。夜はパーティーの後にアクアゴルフへ行ったけれど、パーティーの時にバディーが来れなくなってしまいました。そんな時に、リーダーの人たちや先生たちが一緒に食事をしてくれました。1人では心細かったので、とても嬉しかったです。4日目はブルーマウンテン、買い物、そして送別会がありました。最後までたくさんは話せなかったけど、3日間一緒に過ごせてとても嬉しかったです。また日本の友達も来て、きちょうで嬉しい出来事が多い5日間でした。

T. S. 君 (中3)

僕は、この春ゆめの大自然交流合宿に参加して、よかったと思います。最初の1日目や2日目は、学校の自然教室みたいな感じで、「なあんだ」なんておもいました。しかし、3日～4日目にスタッフのミーティングに参加させてもらいました。その時に、だれがどんな状態なのか、とか、今日の1日の反省会みたいなのをしました。その時にスタッフの活動を見ているうちに、自分も何かできないかと思い、子供のめんどうをみたりしました。そのめんどうをみたりしたりするのもたのしかったです。スタッフの人は一人一人ちゃんとみてくれていて、つねに心配もしてくれます。また、スタッフ一人一人も子供のせっしかたがちがって、スポーツをしたり、おしゃべりをしたりしていて、その中に自分も入ってあそんでもらったりしてすごたのしかったです。また、スタッフの人たちのせっしかたがよくて、最初の方はいうことをきかなかったけれど、最後の方はほんとにしずかにしたりしていて、もし自分がスタッフになるのなら、このきかくのスタッフたちみたいな、人にやさしい人になりたいなと思いました。

K. N. さん (中3) (本編「豪州・ペンリス市 春ゆめの大自然交流合宿に参加して Kさんの場合」に登場します。)

元気のいいバディーと組んでとても楽しく過ごしました。英語がよくわからなくてあまり会話ができなかったことが残念だけど、きれいな景色や学校など、日本と違う風習が見れてよかったです。

K. N. さん (中3)

オーストラリアに行くのかんそうは、少し英語には自信があったけど、それを実践できなかったのも、自分の勉強不足がよくわかった！！バディの子はゆっくり話してくれたりしてやさしかった。日本で勉強するより、2、3日外国にいったら、何て言っているくらいわかった。これからいっぱい勉強してわかるようにしたい。

O. T. 君 (高1)

オーストラリアにもゲームがあって、ビビった。バディも、なかなかナイスなやつだった。やっぱゲームが英語ってえのはかっけえ。

Y. Y. さん (高1)

バディーが優しい子で良かったです。私はあまり英語がしゃべれないので、バディーはつまらないと思っちゃうと思ったけど、私が聞き取れなかったりしたら紙に書いて伝えてくれたし、私がしゃべるゆっくりな英語もしんぼう強く聞いてくれたり、とても仲良くしてくれてうれしかった。バディーのいともいろいろ質問してくれました。あと、高校に行った時にバディーの友達が集まってきて、いろいろ話せたのが良かった。日本人に興味を持ったのかもしれないけど、本当に積極的に話を聞いてくれてうれしかったです。ここが日本と外国のちがいだと思う。こんなに外国人とふれあえたのも初めての体験で、こんなに楽しいものだったんだと新しい発見をした。また来たいです。外国人と英語のレッスンをやるより、こっちの方が楽しいし、学べることがたくさんある。

S. T. さん (高1)

私はこの旅に参加してよかったです。一番印象に残ったのは、バディにあってさいしょのころは英語がよくわからなかったけど、さいごのころにはバディがやさしくてうれしかったです。

I. K. 君 (高2)

この交流会によって普段使わない英語を使って見知らぬ人と会話をすることによって、しっかりとした文では会話できなかったけど、単語を一つ一つつなげていけば少しは会話できるようになって良かったと思う。だけど、相手が長い英文を言うと、しっかりと聞き取ることができなかったのも、今度外国に行く機会があれば、しっかりと話せるように勉強して行きたいと思った。この五日間はあっという間に終わって、いろんなことをしてすべてが楽しくて充実してすごせてよかった。

Y. T. 君 (高2)

文章にするのが難しいくらい感動でいっぱい4泊5日の旅だった。最初はとても不安だった。戦争の事もあったし、参加者はほとんど知らない人だったし、交流でははたしてちゃんとバディと接する事ができるのか等、行く前は不安で押しつぶされそうだった。けれど、参加してみたらそんなものどこかへ飛んでいってしまった。みんな本当は優しく、それぞれに不安があるはずなのに、そんな顔一つ見せずに、ただ楽しんでがんばっていて、何度もそんな姿にはげまされた。オーストラリアの人達やバディの素晴らしい歓迎にも感動した。言葉がなくても国境は越えられる。気持ちは伝わることを学んだ。また少しずつだけど、子供たちの成長が見れたことがすごく、なんだかうれしかった。キッカケで人は何か少しでもかわれることを学んだ。自分も少しかわれたと思う。それが何か今は正直わからないけど、でも今回の旅の中で学んだことや経験は絶対に忘れないし、いつか必ず自分の役に立

つはず。これからも色々なことに挑戦したいと思った。最後に、このメンバーでオーストラリアに無事行けたことを誇りに思う。ありがとう。そして、スタッフの方々、おつかれさま。本当に感動いっぱいの4泊5日の旅だった。

I. S. 君 (高2)

俺がこの合宿に参加しようと思った動機は、受験英語とは違った英語の力を試してみたいということと、外国に行ってみみたいということの2点でした。もちろんこの二つの目は達成されたのですが、今回はこの二つ以外に得るものがたくさんあったと思います。俺はオーストラリアに到着する前は、小学生との接し方にとまどっていました。そんな俺に、小学生の方から話しかけてきてくれて、だんだんと打ち解けていくことができました。普段は同年代の同じ立場の人間だけとしか接していなかったのですが、人に対する考え方がほぼ固定されていたのですが、小学生と接することよりの枠が広がったと思います。これは普通の高校生活ではまず得られないモノだと思うので、オイシイ思いをしたなあー、と思います。また外国人と、それもバディーを組んで触れ合ったことも、人と人との関わりにおける自分の考え方を大きく変えてくれました。俺は自分では、人見知りをして、何かきっかけがないと他人と交わることができない人間だと思ってました。それはもちろん今もそうなのですが、ここでは省略しますが、いろんな体験を通して、本当に重要なのはコトバではなく、心と積極性だと理解しました。今までも気づいてはいたのですが、それが裏目に出ないか不安で、実行に移せませんでした。しかし、今日それが間違っていなかったということを実に体験し、また、合宿に参加した他の人たちとも、想像以上に仲良くなれたので、これからは、確信を持って初対面の人とも積極的に触れ合えらと思います。丁度クラス替えの時期なので、さっそく有効活用したいです。また、オーストラリアの大自然にも純粋に感動しました。特にフェザデイル自然動物公園では、テンションが上がりっぱなしですごかったです。最後に、貴重な体験をさせていただき、どうもありがとうございました。

N. Y. さん (高2)

この5日間は私にとって初めての経験であり、とても楽しいものでした。バディのJennaと話をするときは、常に英語でどきどき。自分の言いたいことが伝わらなかつたりして大変だったけれど、3日間ともに行動することで、自分自身ももつと英語を勉強してたくさんのお話を表現できるようになりたいという意欲がわいてきました。この経験を活かして、もっとたくさんの人と会話できるようにいろんなことに挑戦し、頑張っていきたいと思っています。

Y. T. さん (高3)

最初の頃は初の海外ということもあって不安でいっぱいでしたが、周りのみんなと英会話のときなどで話をして、不安が楽しみに変わっていきました。私は英語がホントに苦手で、

バディーともうまくいかないことが多く、ヘコンでたトキがありました。でも、この交流合宿のおかげでたくさんの仲間もできたし、小さい子の世話などで勉強になったこともあって、すごく楽しかったです。オーストラリアは日本とは違って、緑がいっぱいでいい所でした。英語をもっと勉強して、バディーとの手紙のやり取りが続いたらいいと思います！！いい経験をありがとうございました。

S. Y. さん (高3)

出発の2日前が1番緊張していました。当日は逆にみんながいたので、安心できました。オーストラリアに着いたら自然がいっぱいで緑だらけでした。空港まで迎えにも来てくれて嬉しかったです。シドニー市内は坂が多く感じました。海もすっごくきれいで、砂もサラサラでした。ハーバーブリッジには訓練を受けた人がちょうど登っていて、いい光景を見られました。初めてのバディーとの交流では、バディーのお母さんがと一つても早口で、全然と言っていいほど聞きとれませんでした。少しゆっくり話してくれれば、少しの会話がで出来たかもしれません。高校は本当に不安でした。2人だけにいるし、クラスにも入ったし、やっぱり少し会話が續かないこともありました。動物園ではコアラが触れられてよかったです。パーティーとか、やっぱバディーが友達と話したり、それが早くてついていけなかったけど、アクアゴルフは本当におもしろかったです。夜寝るのも、小さい子がなかなか寝たがらなかったけど、足が落ちちゃったりすると、入れてあげても寝ていて、なんだかかわいかったです。リーダーがいないとき、ちょっとしっかりしなくちゃと思ったけど、みんな素直で何も困らなかったです。バディーのことも、小さい子との交流や大学生と一緒にすごせて、いい経験ができました。自分もああいう人になりたいと思うことができてよかったです。

I. K. 君 (高3)

僕は当初、この研修にはあまりのり気ではありませんでした。しかし今では心から参加できて良かったと思っています。勉強になったことの数片手では足りませんが、中でもこれらのことを理解し、心に残すことができたと思います。目的の達成と共に成長するということです。オーストラリアの自然に圧倒され、僕が思っているほど、自分は大きくないことを知り、まだまだもっと自分を向上させるためにがんばらなければならないな、と思いました。そしてその素晴らしい自然を保護するために、一人一人の意識から大切にしていけないといけないなと思いました。次に友達がたくさんできました。リストを見たとき、高3の男はおれだけだと思いこみました。しかし、話してみるとたのしくて、僕と同じくらいバカな人で、ガヤや池田、りょうとか、山ちゃん、かさん、ちえさん、えりさん、ちっぴ、医者が出て、とてもお世話になりました。この研修の前までは、あまりみんなでさわりだり、ふっきることができませんでしたが、仲間の輪を知ってからは、うくこともこくなくなり、積極的にとけこむことができるようになりました。バディーとの交流は日に日に話が苦しいながらも話せるようになり、前むきに考えることができるようになりました。班の中で行動を

共にすることにより、目に見えて成長するケイトなんかは事前研修会のとくとはくらべものにならないくらいに成長し、大きくなったと思います。忘れてはならないのが、リーダーの人々努力や、企画した山下先生なども反省会の時にいろいろなことを教えてくださったり、研修中も班員のことを先に考えるなどとても立派で勉強になりました。この研修は僕にとって一生忘れることができないくらいの思い出になりました。研修に参加されたみなさん、すごく楽しかったです。ありがとうございました。

リーダースタッフ

O. T. 君 (16 歳)

オーストラリアに行く前は本当いろいろあって不安でいっぱいでした。今思うと本当に無事に行けてよかったと思います。交流会もあってグループのことは仲良かったけど、だんだんと日にちがたっていくうちに他のグループの子達とも仲良くなって、最終的にはみんなみんな仲良くなってよかったです。バディの子とも最初何を話せばいいかわかんなくて気まずくなったりもしたけど、小学校でやったパーテでは、自然に言葉がでてきて良くなってとても楽しかったです。オーストラリアではほとんどが初体験でたくさん不安がありました。でも、みんな仲良くしてくれたし、親切にしてくれたので、本当楽しくて、とても他ではつくることのできない思い出と友達ができました。オーストラリア最高！みんなも最高！最高に楽しかったです！

S. K. . 君 (19 歳)

今回は突然の参加で、STAFF の人には知っている人がいたけど、子供達のことは全然知らなくて、でも、全体の雰囲気すごく暖かくて、すぐになじむことができた。みんなが自分を出せるこの素晴らしい環境の中で、リーダーの優しさや、みんなの楽しんでいる顔がたくさん見れてうれしかった。

M. H. 君 (19 歳)

今回の旅行は初めてリーダーとして参加した行事でした。小学校低学年の小さい子を含め40人以上の参加、さらに海外ということで大変な部分もありましたが、それを自分の成長につなげることができたと思います。この交流会は自分の目から見て大成功に終わったと思います。大きなけがや病気もなく行程を終えられたのはまずなによりです。また、参加したみんながそれぞれ自分のバディとのコミュニケーションを通して日を追うごとに良くなり、成長していったことが素晴らしいこと思いました。小学生の子どもたちも、言葉はほとんどはなせなくてもジェスチャーを使ったり、共に遊ぶことでお互いに打ち解けていきました。英語という言葉にはとらわれないでぶつかっていく子どもたちに素直に感心してしまいます。また、今回の旅行は普通の観光旅行では決してできない貴重な体験をしました。特にジャミソンタウン小学校で書道と折り紙のアクティビティをしたことは、きっと忘れ

ないでしょう。行く前からかなり緊張していてみんな準備をしたこと、生徒達も喜んでくれ盛り上がり成功に終わったこと、親切で子どもたちをまとめるのがうまいエマリー先生に助けてもらったこと。本当に良い体験をさせてもらいました。他のリーダー達も子どもたちの相手が上手で、これからは自分もそうなれるように心がけてみます。まだまだ自分は照れがあるのか、子どもたちに乗り切れない部分があると思いますが、今回すこし変わることができました。本当に私にとって良いチャンスを与えて下さりうれしく思っています。スタッフの皆様と企画してくださった方々、ほんとうにあがとうございました。

S. M. さん (20 歳)

今回のオーストラリア合宿、皆さん本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。スタッフとして、私自身至らぬ点多かったと思いますが、子供たちの笑顔、スタッフや役員さんたちの優しさに多々助けられ、この合宿に参加できたことを本当にうれしく、そして心から感謝しています。まず、何よりうれしかったことは子供たちの大きな成長です。出発前は緊張でこわばっていた顔が日に日に笑顔に変わっていったこと、言葉数少なかった子が自分から声をかけてきてくれるようになったこと、自分自身のことを一生懸命に話してくれたことなど、そのような成長を目の当たりにし、はずかしながら送別会では感極まって号泣してしまいました。ここ何年かは人前であんなに泣くことはなくなり感情を無意識に抑えるようになっていましたが、あの日は流れる涙を止めることができませんでした。子供たちがこれからのいろんな場面で前進するための第一歩を踏み出す勇気をこの合宿で養ってくれ、異文化交流の楽しさや喜びを知ってくれたら、と思い参加しましたが、私のほうが子供たちに助けられ、いろんなことを教えてもらった気がします。これから先も子供たちが感情豊かに、優しさをもって成長してくれるよう、スタッフとして、一人の人間として精一杯のサポートをしていきたいと思えます。これからもスタッフ一同頑張りましょう！

T. M. さん (21 歳)

先生方、スタッフの皆様豪州合宿本当にお疲れ様でした。実を言うと、この合宿にスタッフとして登録してもらっておきながら、自分がスタッフとしてサポートしていけるかとても不安でした。英語も自信がないし、自分のことだけでいっぱいいな精神状態でもあったので、子ども達の面倒まで見ることができるのか、この合宿を盛り上げていくことができるのか心配でした。でも、他のリーダースタッフたちのお陰で私は助けられ、なんとか頑張れました。みんなありがとう。毎日盛りだくさんの活動内容で疲れも見せてしまったが、子ども達の Buddy との交流を見ていると、最初は戸惑いの方がしばしば見られたが、日に日に笑顔を見せる回数が増えていくので、私もうれしくなり、勇気と元気をもらいました。特に最終日の送別会ではビックリ誕生日会や、ダンスを踊ったりしてより交流を深められ、別れ際には写真を取ったり、アドレスを交換したり別れを惜しんでいるのを見て、この短期間で内容の濃い交流ができたのかなと思います。ぜひ日本に帰ってからもこの交流が

続くといいなと思います。私も頑張ります。最後に、オーストラリアは自然がいっぱいで、みんないい人で、とてもすばらしい国です！またぜひ遊びに行きたいです。ありがとうございました。

M. E. さん (21 歳)

全員無事に帰ってこれで本当に安心しています。それがまず最初に思うことです。このプログラムに関わってくれたすべての人々に感謝を述べたいです。約30名の子も達を連れて行く海外、本当に大丈夫かなと思う気持ちはありましたが、子ども達はそんな心配をよそに本当にのびのびと元気いっぱいこの旅を満喫してくれたようです。ペンリス市の人々はとても温かく、私達を迎えてくれました。子ども達にはそれぞれペアの学生がつき、慣れない英語に必死に対応していました。今回の旅で子ども達はみんな伝えたいけど伝えられない、相手が何を言っているかわかってあげたいけどわからないというもどかしさを誰もが体験したと思います。今回感じたその気持ちをいつまでも忘れずに、これからの生活に活かして行ってほしいと思います。この旅は何もかもが新鮮で、きっと参加者全員の一生の思い出に残るのではないかと考えています。子ども達は元気が良すぎて困らせることも多かったけれど、その元気のよさに励まされたり、ほっとすることもありました。もっとももっと多くの子ども達にも、このような旅を体験してほしいと思います。また海外での企画が成功することを願っています。みなさん本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

K. G. 君 (22 歳)

僕がオーストラリア合宿で一番強く感じたことは、人と人との関わりのおすばらしさです。この企画を計画し、参加、協力してくれたすべての人たちにありがとうございました。

O. Y. さん (22 歳)

グループ中心に活動をするが多かったのですが、行きのバスの中からも時間が経つごとに子供達がまわりの人とコミュニケーションをとり、友達の輪を広げていくのがわかりました。最初はどんな子供達と一緒に、私は英語があまり得意ではないけれど大丈夫かな？と思うところもありましたが、ペンリスに行ってしまうとそんな心配はなくなりました。みんなとてもいい顔をしていて、英語はしゃべれないっていついた人も自分の知っている単語とジェスチャーで一生懸命伝えようとしていました。ペンリスの人々の暖かい心みんなに伝わったのだと思いました。私も一生懸命な子ども達の姿やペンリスの人々のお陰で、時間が経つにつれ、積極的にななり、ペンリスの空気になじんでいったような気がします。小学校や高校で授業を体験したことやペンリスの名所をたくさん見ることができたこともよかったです。とても充実した内容でした。ラッキーなことに誕生日をペンリスで過ごすこととなり、おまけにパーティーを開いてもらい、本当にたくさんの方から祝っていただき、とてもしあわせな22歳を迎えることができました。Sちゃんも誕生日のパーティーもあ

り、とてもうれしかったです。日本とは違う環境に行き、そこでたくさんの経験をしたことでスタッフも子供たちも自分を見つめる良いきっかけにもなり、そして、成長できたと思います。今回は人との出会い、別れのつらさを感じた体験となりました。まず、スタッフの人達と出会い、静岡県の子供達と出会い、そしてペンリスのたくさんの人々と出会いました。スタッフの一人が山下先生から聞いたという、「自分がここにいること、みんなと出会ったことが何か意味を持っている・・・」といった内容の話してしてくれたのですが、そのことがずっと私の頭の中から離れえず、とてもよい言葉だなあと思いました。まさにこの旅に参加した人、全員がたくさんの人と出会い、そしてたくさんの影響を受けて大きくなったと私は感じました。

M. M. さん (21 歳)

今回は事前にスタッフや参加者の交流会を幾度か行い、色々な子どもたちとよく事前交流でき、たくさんの方のことを把握できてから行けたことがとてもよかったです。そして、訪問するにあたって私たちが準備することや、さまざまな期待感を持つことに、嬉しさ楽しさを感じました。初めていろいろな事に出会うことの醍醐味を、旅の中の様々な場面で体感することができました。参加者はもちろんのこと、リーダーたちもそれぞれに感動していたのが、同じ立場のリーダーとしてなぜかとても嬉しく胸がいっぱいになったのを覚えています。希望や勇気や愛などきれいな事のように言われている現代で、何か本当に揺るぎなく大事なものをみたよう気がしました。ほんの小さな事で、場面で、大きな希望を感じました。また、国人種、言葉を意識する日本の日常ではあまりない感覚。日本の文化や日本からきた私たち自身をよく相対的に見る事ができた貴重な体験でした。もっと同じ時に生きる世界を見たいと思いました。英語も頑張りたいし、日本のこともよくわかるようにしたい、日本の子ども達とももっと出会いたいと思いました。相手に対して自分をオープンに、共に感じる'楽しさ''うれしさ'を自然に怖がる事なく出していければ人は笑いあえる。そういう度胸や大きさを子供たちは実際に身につけてきたのがよく表れていてとても印象的です。参加者みんなの自然にこぼれてくる笑顔と、どんどん変わっていく様子を見て、私もその子供たちからパワーをもらいました。きっと、みんな心が前よりでっかくなって帰ってるなあと思いながら、帰りの機内でみんなを見ていました。まだまだ書き尽くせないほどに学んだ事や感じた気持ちがたくさんありますが、このような素晴らしい機会を与えてくれた山下先生を始め、この合宿に関わり大きな力を与えてくれた全ての皆様、オーストラリアの皆様、参加者のみんな、ご父兄の皆様にとっても感謝しています。本当にありがとうございました。いつも合宿があるたび合宿全体、一人の人として、一人のリーダーとして反省をしてきましたが、振り替えればいつも足りない所ばかりが見えました。スタッフとしてのスタートラインにも立っていないような気がしていました。けれど今回は自分にも“よくやった、そして次へのステップへ”と言ってあげたいです。また一緒に行った参加者のみんなに早く会いたいです。みんなの一人一人からオーストラリアで感じた夢や得た感動の気持ち

は広がっていくと思います。そして、オーストラリアのみなさんにも再び会えるのを楽しみにしています！！ありがとうございました。

K. S. さん (21 歳)

今回の合宿は、今までとは違う海外ということで私も子どもたち以上に緊張しました。でも、いざオーストラリアに行ってみると、いっぱい自然とおおらかな現地の人たちに触れ、緊張もしいほぐれていきました。大自然に囲まれた町並みやきれいな海、すばらしい建造物、自然の雄大さを教えてくれる名所など、日本には決してみることでできない場所や景色も心をなごませてくれました。そんな合宿の中でやはりオーストラリアの人たちとの交流は思い出深いものであり、さまざまなことを考え、学ぶことができました。私は小学校に行き小学生と一緒にクラスで折り紙と習字を教えるという機会がありました。教育実習を思い出したりもして、かたことの英語でなんとか説明したのですが、なかなか通じないことも多く、自分の英語力のなさに情けなくなり、どんどんしずんでしまいました。そんな時、一緒にクラスに行った学生たちが言葉が分からないなりにコミュニケーションをとっていて、それがショックでもあり、とても勇気付けられました。さらに、パーティーなどでも子どもたちはみんな無邪気に接していて、言葉をこえた心のコミュニケーションを身を持ってみることができ、とても感動しました。この合宿を通して私自身何か成果があったわけではありませんが、異国の地で日本とは違うものに触れたり、バディーとの交流を通して自身をつけ、身も心も成長させた子どもたちを見るたびにとても満足した気分になります。これからも子どもたちにこういう機会を是非提供して行ってほしいと思います。

K. Y. さん (21 歳)

この“夢の交流合宿”の一員として、皆様と共に参加することができて、本当によかったです。日本という国を飛び出し、人種や言葉、文化というものを越えて通じる思いが、自分の心を変化させていくのがわかりました。初めて出会う人たちとお話をし、一緒に遊ぶことができる子どもたちの立派な姿は、私にたくさんを教えてくださいました。人って未完成だからこそ可能性があるのですよね。幾つになっても大きな可能性のある未完成な人であり続けたい、そう思いました。年齢を超えて教え教わっていくことで、皆の心にあたたかいものが宿る・・・そういう瞬間をたくさん感じることでできる心を持った人は、とても豊かな気がします。どうか、今回のすばらしい経験が勇気や元気を与えるパワーの源となって、子どもたちの心にいつまでも生き続けますように。

本部スタッフ

O. T. さん

今回は一般参加という形で、この交流会に同行しました。小学校の低学年の子供から高校生、リーダーの大学生、そして大人とさまざまな年齢層の団体でしたが、それぞれに有意義

な日々が送れたことと思います。特に、ペンリス市の国際交流協会の方々はもちろんのこと、学校の生徒さん、ご父兄の皆さんが本当に親切に、友好的に接して下さったのには、言葉に言い表せません。感謝の気持ちで一杯です。これも一重に藤枝市とペンリス市の友好協会が、長い年月かけて築き上げてきた賜物だと思います。このような交流が相互に行うことができれば、より一層友好の輪が広がるでしょう。最後にペンリス市と藤枝市の友好協会のみなさまにもう一度感謝します。

M. Y. さん

お世話になりました。全員で元気で楽しくすばらしい旅ができました。ありがとうございました。ペンリスの方々にも心のこもった受け入れをしていただいて、観光旅行では絶対に味わうことのできない、ふれあいの旅を enjoy できたことは、長い間の友好関係のおかげだと思います。これからもずっと続けていきたいことだと思います。すばらしいバディとふれあい、きっと子供たちの財産になると思います。言葉でつながることよりも、もっと違うすばらしいつながりがあることを体で感じる事ができたのではないのでしょうか。お互いを思う気持ちから関わりは始まるのではないかと考えています。計画・運営の山下先生、後藤会長、斉藤会長、佐々木さん、池田さん、リーダーの方々、本当に、大変だったと思います。ありがとうございました。何もお手伝いできなくて心苦しいです。この旅の経験、感動を力に活躍してほしいと思います。書ききれない思いはお話で・・・

I. R. さん

今回、春ゆめの大自然交流合宿に参加させていただき、本当に貴重な体験をすることができました。小さな子供たちを含む、50人以上のグループで、オーストラリアへ行くというのは初めてのことで、行く前はとても不安でしたが、オーストラリアと日本の子供たちの心を結ぶお手伝いが少しでもできればと願いつつ出発しました。今思い返してみると、楽しかったこと、感動したことばかりが心に残っています。ペンリスの学校を訪問し、皆で絵を描いたりお菓子を作ったりしたこと、ブルーマウンテンで雄大な自然に触れたこと……。いろいろなことをしましたが、何よりもオーストラリアのバディーと子供たちが本当に楽しそうに交流している様子を見て嬉しくなりました。また子供たちのために夜遅くまで一生懸命準備をしていたリーダーのみんなの様子を見て、心を動かされました。この経験を通して、皆一回りも二回りも大きくなったことと思います。今回参加したみなさん、そして暖かく受け入れて下さったペンリスの皆さん、本当にありがとうございました。

S. T. 氏・本事業顧問

この4月に2年生になったばかりの2人を含む小学生15名の殆どが、初めて親元を離れ、ほか30名の中高生や大学生リーダー達も含めて、それこそこれも殆どが初めての海外合宿。しかしながら、周囲の大人達の心配をよそに、言葉の壁を越え積極的に交流を深める子供達

の姿には、頼もしささえ感じました。初めてバディと出会った時は、なかなか英語が出ず、さすがに言葉が少なかった子供達。でも、それは小学生。すぐに遠慮なく日本語で答え、身振り手振りで説明し、リーダー達に教わっては英単語を並べ立て、打ち解け始める。中高校生も翌日の学校訪問からは英語でどんどん話し始め、表情もとても豊かになってきました。普通の海外旅行では決して経験できないこの3日間の交流は、彼らにとって大変貴重な経験となり、自分をオープンに出すきっかけになったと思います。ただ少し残念だったのは、礼儀作法。まずはすぐにありがとうの一言が言えるように心がけて頂きたい。今回のリーダーの大学生や高校生達の対応は、私も同行しました昨年の沖縄合宿に比べて数段良くなっており、統率も取れていて、立派でした。これからこうした活動を通じて是非自分を成長させてほしいものです。

佐々木百合香さん・藤枝市国際友好協会副会長

私が長い間描いていた夢がとうとう実現しました。ペンリス訪問が藤枝市国際友好協会員として4度目でしたが、45名の子供たちと過ごした5日間で信じられないほどのペンリスの人の温かさ、子供たちへの包み込む様々なまなざし、そして奉仕の心を頂きました。子供たちがそれぞれのバディと戯れ、遊ぶ時の国を越えた生き生きとした姿。それをじっと見守るリーダーたち。かたく心を閉ざしていた子どもたちが身振り手振りで走り遊び回る姿はペンリス、日本の誰をも感動させたに違いありません。特にすばらしかったのは、高・大学生のリーダーたちの統制のとれ、行動と責任感に満ちた、それでいて思いやりのある指導でした。夜中まで及んだ毎晩の反省会に一人一人の気持ちがありありと表れていました。山下先生、お疲れ様でした！多分読んで頂けないかもしれませんが、ペンリスの大勢の市民の皆様に心からお礼を申し上げます。

後藤彰氏・藤枝市国際友好協会会長

ペンリス市訪問前の不安な顔が一日目のバディとの初顔で少し安心した顔に変わり、私も安心した。二日目での学校訪問ですっかりうちとけ、笑いと会話にはずみ、私もすっかり安心した。子供たちの夢が未知との体験により三日目のお別れパーティで爆発し、感動、感激の一言につきました。海外での初めての経験を知り、将来の自分への目的意識が育んで行く楽しみを実体験し素晴らしい合宿でした。今回の静岡県教育フォーラムの新たなチャレンジも大成功、今後益々の発展を祈ります。

山下泰孝・静岡県教育フォーラム理事長

当時創設したばかりの静大バレーボール同好会の協力を得て、学生達を中心となって30名の静岡市内の小学生を連れ、国定公園の神奈川県丹沢山系で4泊5日のキャンプを行ったのが、大学2年の夏。グループリーダーとして特に小学1、2年生の面倒を見てくれた、やんちゃ坊主のミュートンと優しいエッチちゃん（共に当時小6）。時々羽目をはずすことが

あってもサブリーダーとしてリーダーを支えてくれたリッペにカメ、そしてウッチン達（共に当時小4）。彼らの本当に生き活きた顔が、この27年間に行ってきた数多くのこうした活動に参加した子供達の表情と同様に、この度の事業に参加した皆さんの顔と重なって見える。時を越えても子供達のこうした姿は変わらない。出発の時は親のそばにいて小さく見えた子供達が9時間の空の旅から遠く南半球のオーストラリアに立ち、Buddy達と言葉を越えて通い合い、覆いを破ってグループの仲間達と群れ集う。イラク戦争勃発の世界情勢の中、私も含め殆どが初めての海外合宿で緊張した表情も、時間を迫る毎にほころび、満顔の笑みと変わり、表情や行動にたくましささえが現れ始める。無口でなかなか仲間の中に入っていけなかった生徒達が、Buddy達の遠慮ない語り掛けに英語で話し始め、いつしか5、6人の仲間達と談笑している。普通の海外旅行では決して経験できないBuddy達の授業への参加。隣のBuddyの説明にじっと耳を傾け、授業を受ける。一緒にクッキーを作ったり、絵を書いたり、あるいは折り紙や習字を教えたり。ショッピングにBuddy達が付き合ってくれた。もう参加した子供達の表情もとても豊かになってきた。加えて、子供達が寝た後のスタッフミーティングを垣間見て、リーダー達の役割を思いやり、グループの仲間達の面倒を見始める高校生。まさしく異年齢の真の仲間が出来る。あるいは、恐竜時代から続くブルーマウンテンの大自然に触れ、己の小ささを知り、自然に対して畏敬の念を覚えた子供達。これらの感動が送別会の約150名の大ブッシュダンスとなり、その余韻でその夜のミーティングもみんな感極まってしまう。本当に素晴らしい合宿でした。正に「ゆめ」だった、この「豪州・ペンリス市 春ゆめの大自然交流合宿」も、私共の申し出に全面協力の英断を下して頂いた藤枝市国際友好協会様を始め、本事業の趣旨にご賛同頂き、こうした経済状況の中資金的にもご支援頂きました(株)中央防犯を始め、賛助企業や賛助者の皆様、またこのプログラムの作成から運営までを引き受けて頂いたペンリス市国際友好協会様、本プログラムにご協力頂いたジャミソントウンブリックスクール&キングスウッドハイスクールの両校様に、藤枝・ペンリス両市の皆様、そして、素晴らしいBuddyの皆様、皆様のお陰で「正夢」にして頂きましたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

なお、本企画は2002年12月13日付け静岡新聞朝刊20面に紹介されました。また、2002年12月14日付け中日新聞朝刊18面に、理事長の紹介方々同合宿が紹介されました。更に、2003年4月11日付けオーストラリア・ウエスタンウイークエンダー紙に、2003年4月15日付けオーストラリア・ペンリスプレス紙に、同合宿が紹介されました。